

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1298900067	
法人名	株式会社 モンナ・ケアサービス	
事業所名	グループホーム 香取の杜 中々	
所在地	千葉県香取市小見川5598-1	
自己評価作成日	平成24年9月14日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8	
訪問調査日	平成24年10月18日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

香取の杜中々は、居宅支援事業所を持っていない。そこが、特徴となつてか、地域全体の居宅介護支援事業所から等しく協力を得られている。今後も地域の居宅介護支援事業所との協力関係の維持推進に力を入れたい。香取の杜中々のグループホームは、同一建物内にグループホームとデイサービスとショートステイがあることからグループホームの入居者が地域の方々から孤立することなく交流できることがアピール点である。また、施設所在地の平成23年3月大震災以降の復興も進行中であり、施設としても今後の災害に対する備えに配慮している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利根川の近くにある「グループホーム香取の杜中々」は、平屋建てのデイサービスとショートステイが併設された、複合施設である。玄関ホールには座敷が設置され和風旅館の趣があり、落ち着いた風情のある雰囲気となっている。施設全体で実施される合同レクリエーションや地域ボランティアの受け入れ等、内部・外部の人との交流が図られ、生活の活性化に繋がっている。また、特殊浴槽の使用等では連携が図られており、入居者の意向に即した入浴支援が可能となっている。去年の大震災後には地域住民や関係機関との連携強化を図ると共に、備蓄品の量・種類・保管場所等の再点検も実施している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には、地域密着型のサービスを提供しようとする姿勢があらわれている事業者の独自のもので構築している。理念は共有するように全職員の名札の裏に印刷しており、いつでも確認できるようにしている。	法人理念と施設理念を施設内に掲示し、職員や来訪者等に周知徹底を図っている。新人研修・オリエンテーション・カンファレンス時には必ず理念に触れており、その会議資料を職員に配布し、理念の確認・浸透に取り組んでいる。全職員は名札の裏に理念を印刷しており、理念実現に向け活用している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の人の出入りが多く、それにより交流の機会が必然的にもっている。くもんボランティア等地域のボランティアを受け入れている。複合施設のため通所者や短期利用者との交流もある。平成23年の震災被害の多い地区のため昨年の水神祭は中止となったが、今年は地区の水神祭(10/14)も復活し子供神輿が施設に来てくれる。毎年、近所の保育所にも発表会によばれ交流がある。	日頃から近隣住民との挨拶や、地域行事へ参加等を通じて、地域との交流が図られている。地域ボランティアの積極的な受け入れや保育園からの招待等を通じて、外部の人達とふれあう機会が多く、施設理解の促進・生活活性化に繋がっている。また、「介護のよろず相談」事業所として活動しており、地域住民に役立つ情報提供ができるような体制を整え、地域貢献にも取り組んでいる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	香取市地域密着型サービス連絡会の一員として認知症よろず相談ステッカーを施設に掲示し認知症理解のために開放している。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、民生委員や市職員や利用者家族様に声掛け、平成23年度は東日本大震災時の状況と対応、防災訓練等の報告や話し合いをし意見を参考にした。顧客満足アップの取り組みや職員安全運転診断の実施やインフルエンザ等の感染症対策や外部評価結果や普通救命講習受講計画と実施についても報告している。	地域代表者・市役所職員・民生委員・入居者・家族・職員等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動内容報告・意見交換等を行い、施設の理解促進やサービスの質の向上に活かしている。昨年の東日本大震災時の状況・対応等についての意見・情報交換を行い、地域の問題解決や災害時の協力体制強化に取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	様々な制度、例えば介護保険法等の解釈や運用の方法について随時指導を受けるなど良好な関係を築いている。入居者に増減があったとき等はメール等で報告。市担当者が係わる地域密着サービス連絡会議に管理者は参加している。	市に対しては、運営推進会議への出席依頼や定期的な日常業務全般の報告・連絡・相談を随時行っており、市とは協力関係が構築されている。グループホーム連絡会の会議では会員として、市との意見交換・情報交換を行っており、市と他の事業所と協働体制の強化を図り、サービスの向上に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新任職員オリエンテーション等で説明し、身体拘束をしないケアを実践している。面会外出は自由であり、鍵をいかにして掛けないでケアするかという観点から、常に見守りを心掛け自由な行動ができるよう身体拘束はしない。	身体拘束排除におけるマニュアルを整備していると共に、新人研修や勉強会の中でも指導をしており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。玄関は施錠せず、理念に基づいた、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、会社理念の中にあり、各職員の名札の裏に印刷しており、いつでも確認できるようにして、日常から職員相互で注意を払い防止している。同一施設内に身体拘束廃止研修基礎課程受講修了者がいて施設内全体に注意を払っている。入浴時に身体異常はないかチェックする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の社会福祉協議会とは良好な関係を築いている。日常生活自立支援事業や成年後見制度について施設にある資料で概要を学ぶことはできるが、今のところこの制度を活用したいという方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は、利用者や家族の意思で利用申込みのあった方に対して、管理者等から説明を行い納得いただいて入居している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等面会あり、利用者や家族はその場で職員に意見できる。家族は来訪の際に直接言っている。職員は利用者にとって馴染みの暮らしが出来るように家族と相談して対応。ご意見箱も設置。際立った苦情や不満はないが、意見はCSの取り組みに活かしている。入居者間で気が合う合わないの感情的要望はあった。	意見箱の設置・アンケート・家族の面会時・運営推進会議等活用し、直接家族の意見や要望を確認している。定期的居室担当者が、入居者の写真入り手紙のメッセージを手書きして家族に送付しており、日頃から家族にとって来訪し易いよう、親近感が持てるような環境作りにも配慮している。また、家族との連絡対応を記録し、会議等で検討を図り、意見・要望を運営やサービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は必要に応じて、管理者等にその都度相談している。職員のカンファレンス等で意見を述べる機会もある。職員の意見は管理者間で相談して対応するため必ずしも意見を取り上げるとは限らない。	定期的な会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認する機会を設けている。日頃から管理者が職員と個別に相談に乗る等、コミュニケーションを図りながら、意見や要望が言い易いような環境作りを心掛けている。挙げた意見・要望は会議等で検討し、状況に応じては調整を行い、意見・要望に配慮した対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するよう人事考課や面接を行っている。会社の代表者は、事業全体の実績によって賞与又は手当等で給与面に還元している。契約社員でも職員個々の努力や実績によって正社員登用の道がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で職員勉強会を実施。介護の資格なく未経験の職員は社内初任者研修参加機会がある。向上心をもって資格を取得しようとする者は勤務上の配慮をする。外部研修は必要に応じた参加とする。施設運営上必要不可欠な資格取得については代表者の指示するところによる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、市の地域密着サービス連絡会議や介護支援ネットワーク会議に参加している。職員は、モデンナ・ケアサービスの各事業所間の行事等に任意で参加する事ができる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と十分に話し合いをもち、又、家族や入居前活用していた居宅支援事業所からも情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に家族と話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人からの要望を聴取し、入居前活用していた居宅支援事業所からの情報を把握し計画を作成し実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業を入居者の状況をみながら共に行っている。プランターで菜園や花を育てたり、おやつ作りなど可能な範囲でともに行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会は頻回にあるため利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に知っていただくためその都度状況報告し相談をしている。遠方の家族にも定期的に日常生活状況を電話等で報告している。毎月発行されている写真とスタッフによる利用者の様子等が記載されている「ベストスマイル」と題するホームだよりを利用者家族に毎月郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医への通院支援実施。行事の際の家族への声掛け。友人知人来訪時は本人居室で面会している。ショートステイやデイサービスが同一建物に併設しているため交流している。買い物や外出支援も行っている。	地域の商店への買い物・地域行事への参加、行きつけの場所への外出等、入居者の希望に添った柔軟な支援を実施しており、生活の活性化に繋がっている。また、手紙のやり取り・併設のデイサービスやショートステイ利用の友人との交流等、一人ひとりが良好な馴染み関係継続ができるように場面作りや機会作りの支援にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席順、外出時のグループ分け等を配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅で見れる状況になったと退居した方が開設以後3名いた。退居時指導を行い、その後のサービス利用に当たり情報提供する旨を伝えた。入居前利用していた居宅事業所に相談にのって頂けるよう依頼した。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの訴えを傾聴し、本人や家族の思い意見の把握に努めている。会話や生活の様子を申し送りノートに記録し入居者の意向や思いを把握し、定期的カンファレンスで検討し入居者個々の生活支援に努めている。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認し、記録している。また、必要に応じて医師の意見書や他の介護サービス事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報の把握に努めている。入居後は家族との話し合いや日々の生活観察・会話の中から意向を汲み取り、詳細に記録している。会議にて記録を活用し、周知・検討を図り、入居者の意向に沿った本人本位の生活支援ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人又はご家族・医療機関・入居前の居宅支援事業所や施設からの情報を得て把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックは毎日行い測定時に様態も聴く、歩行状態も見守りの中で把握する。日々の申し送りにて現状を把握する。状態が安定しない者は24時間シートを作成して観察する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望、ご家族の意見を重視し、カンファレンスにて話し合い介護計画を作成する。カンファレンスにて話し合い時にも同様にご本人の希望、ご家族の意見を重視し、カンファレンスにて話し合い介護計画を作成する。	入居者・家族の意見・意向を踏まえ、申し送りノートや生活記録等を活用し、全職員で意見・情報交換を行いながら介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標達成状況の確認を実施しており、必要に応じて見直しを行い現状に即した介護計画の作成に努めている。また、職員間で定期的に意見交換を行い、情報の共有に努めており、入居者一人ひとりに即した介護計画の実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、体調管理の記入、申し送りで情報を共有し、日々のケアや介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族から入居前の暮らし方等もうかがい。本人と地域の関係等も把握し、外出活動等で継続できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族から入居前の暮らし方等もうかがい。本人と地域の関係等も把握し、外出活動等で継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診記録を作成し、経過が把握できるようにしている。希望のかかりつけ医に受診でき、希望に応じて通院付き添いも支援する。併設のショートステイに医務室が設置され定期に往診がある。医療面でショートステイ看護師の協力を得ている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、必要に応じて職員が通院の付き添い支援を行っている。協力病院を設置しており、定期的に内科医の往診が実施され、適切な医療支援が行われている。また、併設のショートステイに常勤の看護師がおり、医療面における連携が図られており、入居者・家族・職員の不安解消に繋がっている。受診状況や身体状況を記録した入居者個別の受診記録が作成されており、かかりつけ医や協力病院等への速やかな情報の伝達・共有が図られ、適切な医療支援に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りノートを活用、また介護職は併設のショートステイなどの看護師にオンコール体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時の付き添いにより医療情報を把握し、介護職からも医療従事者に施設での様子を伝えていく。利用者の係り付け医療機関を大切にしている。当施設は複合福祉施設としてショートステイもあることから施設は地域の医療機関と良好な関係を保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、担当医と話し合い、指導頂いた結果をもとに、日々の申し送りや月に1度のカンファレンスにて方針を共有している。	重度化・終末期においては施設での看取りは行っていないが、契約時に、本人・家族に施設の方針を説明し、延命処置に関する意思表示同意書を交わしている。終末期・重度化した場合には、協力病院・家族・関係者等と話し合いを行い、本人・家族の意向に沿えるよう努め、安心と納得を得られるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で実施した緊急時対応の勉強会の資料やマニュアルを見て備えている。急変や事故発生の場合は同一施設内の看護師や管理者にオンコール体制をとっている。利用者様の様態急変に対し、介護職が適切な対応が取れるようにするための実践的備えとして、介護職員は普通救命講習を受講した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下に地震や火災時の避難訓練、消火訓練、通報訓練、夜間想定訓練を実施した。消火栓、スプリンクラー、消火器、通報設備を設置して。防災資料は職員が見れるようにしている。災害時は区長より地区区民センターを開放いただける。	消防署立会いの下、年2回、消防避難訓練を実施している。訓練では地震・火災・夜間等の様々な災害を想定した訓練が実施されており、その訓練内容を活かし、適切な訓練方法・対応方法・設備点検等を確認し、非常災害時に備えている。震災後、施設としては災害時の備品の種類を増やす等、災害時に備えて再点検を実施している。また、市が作成したハザードマップを参考にし、施設として災害時における地域の理解や協力・他の事業所との情報交換等、地域の関係機関との支援体制の整備や協力体制の構築に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員入職時に介護職としての心得や接遇マナーを教育し個人情報の保護についても同意書を交わして入居者のプライバシーを損なわないよう努めている。	業務マニュアルにプライバシー保護を含む接遇マナーや職員倫理を明記すると共に、新人研修や会議にて個人の尊重に配慮した接遇を指導している。職員は言葉使いや介助方法に十分配慮しながら、一人ひとりに即した対応に努め、その人らしい生活を支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの都合で決めることなく、ご本人の希望で自己決定できるように見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れは決まっているが、職員側の都合でケアしてしまう事のないように利用者の希望に添って臨機応変に対応している。日々の生活を本人の希望どおり過し、レクなども声掛けはするが強要はしない。リビングで食事したくない時は部屋で食事したり時間をずらす事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の移動美容室の提供。ケアクリームの使用を促す。日々の服装は本人が好みで決め服装や髪の乱れは職員が介助して整える。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はショートステイ所属の栄養士がバランスや楽しみを考慮して作成したものを調理員が調理するが、入居者の希望や能力に応じて食事の準備やおやつ作りを共同で行うよう努めている。おやつ作りは楽しみに配慮して行ったり、専門店から和菓子や洋菓子をとり寄せて楽しむ。	施設内には共同の厨房が設置されており、食事はここからグループホームに提供されている。献立は栄養士が作成しており、栄養バランスや一人ひとりの状態に配慮した食事提供がなされている。また、入居者の希望を取り入れながら、手作りおやつや外食会が実施されており、食に対する楽しみを提供している。他には、お菓子購入には地域の店を利用しており、食を通して地域との関係継続に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立。食事中の声掛け会話で状態把握し摂取支援する。1日の水分量をチェックし総摂取量を把握する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの誘導と実施を促し、実施状況を表にチェックしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	コール対応及び時間をはかってトイレ誘導を行っている。排泄チェック表で排泄パターンを把握している。	排泄チェックリストを活用し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、適切な声掛けやトイレ誘導にて排泄の自立を支援している。水分チェック表の活用や体操・食事等を工夫すると共に、医師や看護師と連携を取りながら、適切な排泄習慣の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、牛乳、飲むヨーグルトなど、ご本人の希望により提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に合わせて入浴の回数・時間の調整をしている。身体状況によって併設施設の特殊浴槽も利用する。季節に合わせてゆず湯等も実施する。バスクリン等を使用し大浴場で温泉気分を味わってもらうように取り組んでいる。	入浴日は決まっているが、希望に応じて回数や時間等、柔軟に対応している。また、必要に応じてシャワー浴・清拭等を取り入れ、入居者の清潔保持にも努めている。併設施設には大浴場・特殊浴槽等の設備が整っており、入居者の希望や身体状況に合わせて適切な入浴支援が実施されている。他には、沐浴剤の活用や季節感を取り入れる等、入浴の楽しみが広まり、気分転換にもつながるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により、午睡の時間の確保。休息、睡眠は本人の自由だが、生活リズムが崩れない程度には声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設施設に看護師が勤務しており、協力を得て介護職員が服薬及び健康状態をチェックしている。個々の服薬は併設施設の看護師室に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみ、掃除、食器の片付けを職員と共に行う。プランターで家庭菜園を実施し楽しんで頂いている。好きな本を見て頂ける様にフロアに本棚を設置している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出を実施。家族との外出時の送迎援助。季節に合わせた外出行事を企画実施している。	日頃から、入居者の希望・体調・天候等に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が実施されている。定期的に外出会等を企画・実施しており、福祉車両を活用して様々な外出活動が行われ、入居者・職員の楽しみとなっている。また、入居者と家族が外出を楽しめるように工夫しており、一人ひとりの希望に応じた柔軟な支援も行っている。施設内ではボランティアによる催し物・デイサービス利用者との交流・機能訓練等が行われており、入居者の生活活性化に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物への同行支援。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の許容範囲内での電話及び手紙のやり取りの支援。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームはバリアフリーの和を基調とした造りとなっていて、清潔で広がりのある空間を整え窓も多く日中は心地よい光が差すように設計されている。玄関・廊下、リビングに季節の花を飾り、廊下には適度に入居者様の作品や写真を展示している。	建物はデイサービスとショートステイが併設された複合施設となっている。館内は生活感や季節感等を取り入れ、入居者の生活に配慮した造りとなっており、居心地が良く、身体機能に即して自立した生活ができるような空間となっている。玄関や廊下等の共有スペースには入居者の作品や写真が掲載されており、入居者の活動意欲に繋がるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にテーブル・ソファ及び廊下にベンチの設置。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室で、本人が自宅で愛用していた物を、居室に持ち込んでいただいています。馴染みの家具を持ち込んだりして、思い思いのレイアウトで過ごしている。	馴染みの物を自由に持ち込む事が可能で、入居者が居心地良く生活できるように配慮されている。また、生活歴・希望に応じて絨毯やベットの使用等の選択が可能となっており、生活スタイルに合わせた居室作りがなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は明るく、簡素で落ち着いた色合いで、けばけばしい装飾はなく、お年寄りに居心地の良い空間となるように配慮している。廊下は衝撃吸収性の素材が使われ手摺が設置されており、建物全体に段差無く、ドフは横引きで車椅子でも活動しやすく、安全に配慮したものとなっている。		